

ピカイチ先生の
生活経営セミナー

2020年01月
進化論の人生設計
(②分断本能と日本人)

ネクストライフ・コンサルティング

〒975-0038
福島県南相馬市原町区日の出町167-3
info@next-life-consult.com



ピカイチ先生

ピカイチ生活経営塾

検索

【復習】進化とはなんだろう

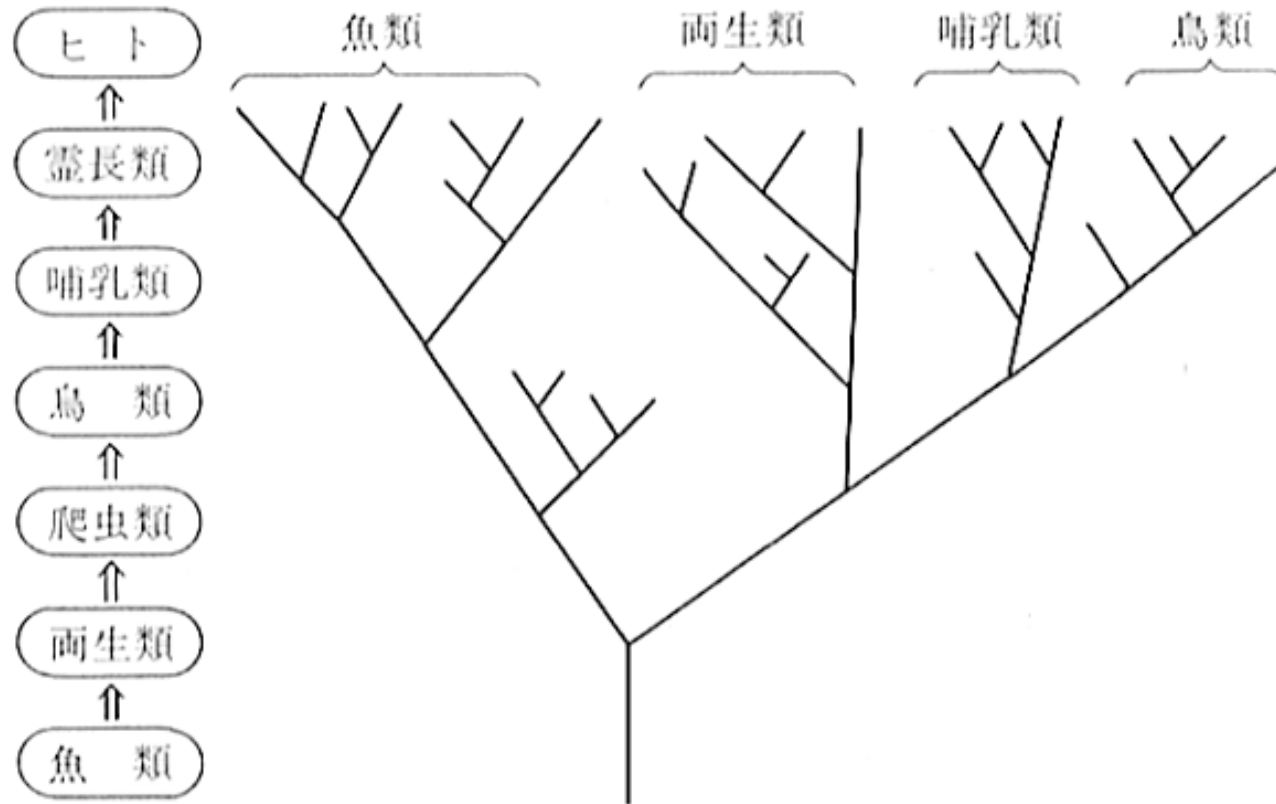
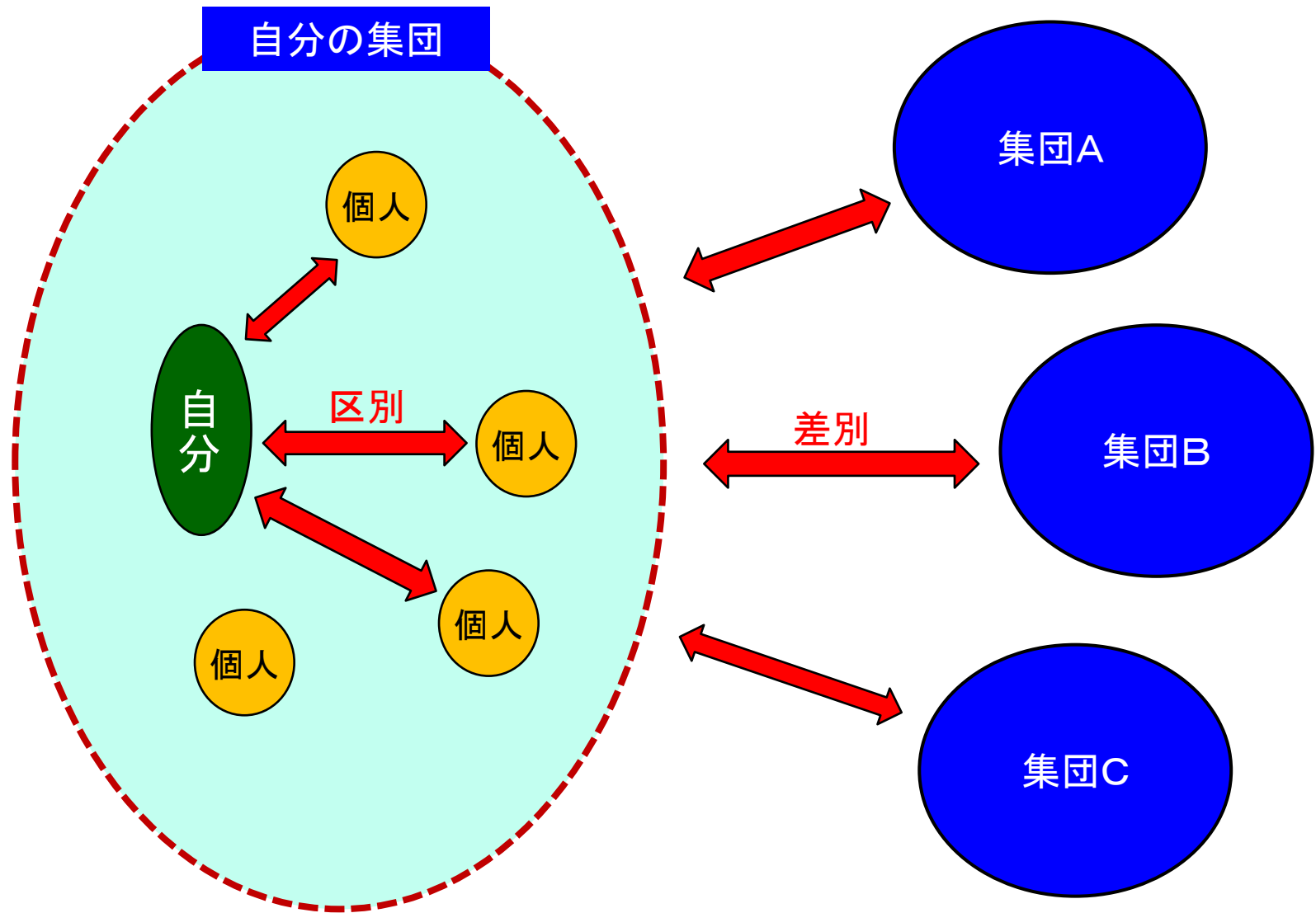


図9 進化に関する2つの見方. 進化は, 左のような梯子ではなく, 右のような枝分かれの過程である

『進化とはなんだろう』(1999.06.21 長谷川 真理子)より

本能による「閉じた空間」



進化によるプログラム（分断本能）

私たちは、人生というゲームのなかで、自分が所属する集団で役割(キャラ)を確保し、できるだけ目立とうとすることと、自分たちの集団を敵対する集団より優位に置こうとすることを進化によって“プログラミング”されています。

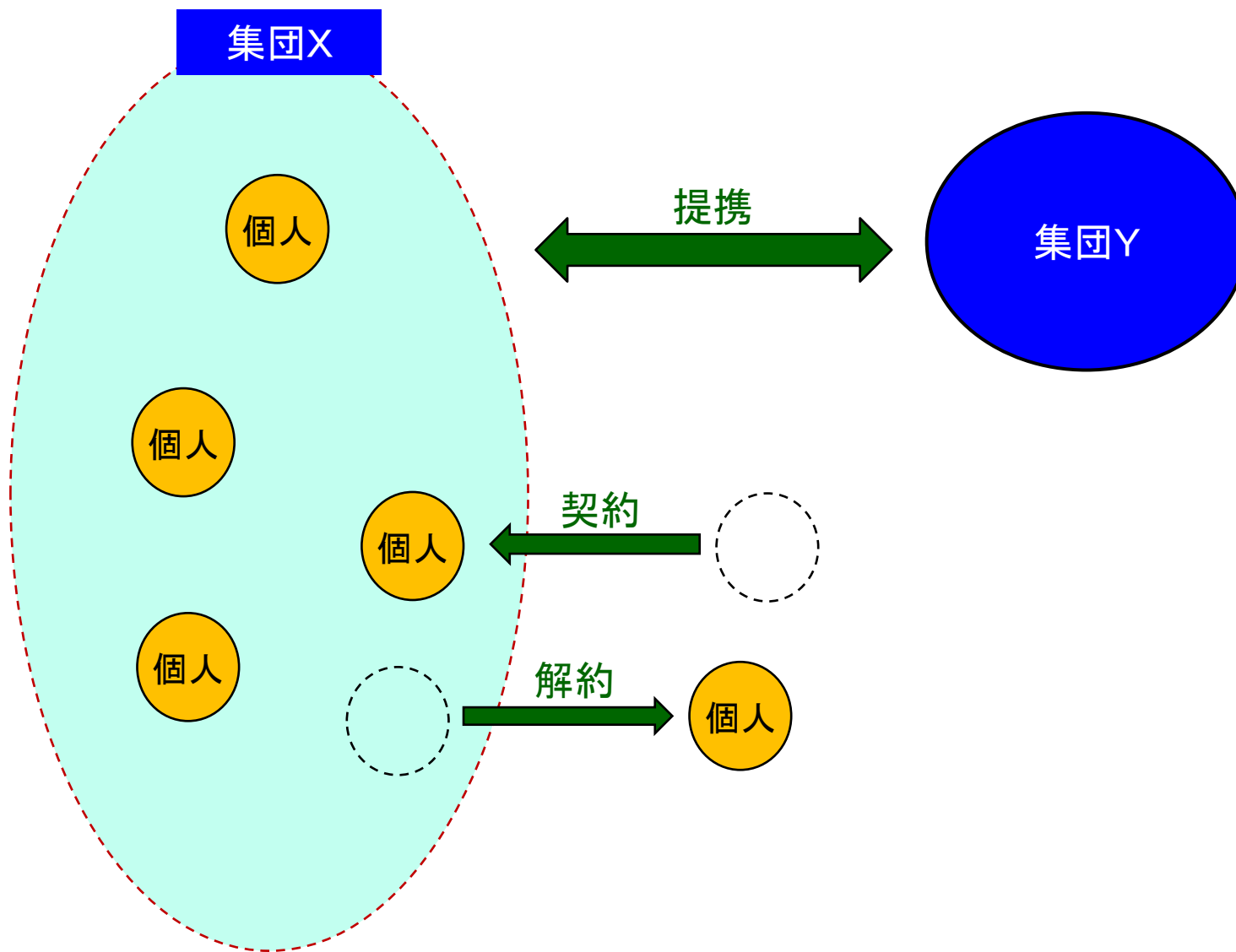
私たちがなぜこんな複雑なゲームをするかという、敵対集団に敗れば皆殺しにされてしまうし、集団のなかで目立てなければ異性を獲得できないからです。

いったん「集団」ができると、こんどは集団同士で合従連衡が始まります。

敵対する集団と自分たちの集団を差別化し、敵の敵とは連合を組み、相手の集団を征服して勢力を拡大する …… 戦国時代からヤクザ、政治家、会社内の派閥抗争に至るまで、歴史をさかのぼれば旧石器時代から、あるいはチンパンジーと分岐する前から、ヒトはえんえんと同じゲームを繰り返してきました。

『幸福の「資本」論』（2017.06.14 橋 玲）より

理性による「開いた空間」



政治空間と貨幣空間 (1/2)

政治空間の基本は、敵を殺して権力を獲得する冷酷なパワーゲームです。

それに対して貨幣空間は、競争しつつも契約を尊重し、相手を信頼するまったく別のゲームが行われています。

人間社会に異なるゲームがあるのは、富を獲得する手段に、①相手から奪う(権力ゲーム)、②交易する(市場ゲーム)という2つの方法があるからです。

(中略)

権力ゲームは戦国時代や三国志の世界で、その目的は、集団のなかで一番になること(国盗り)と、異なる集団のなかで自分の集団を一番にすること(天下平定)です。

もちろんみんなが勝者になれるわけではありませんから、集団のなかでどのように振る舞うかもこのゲームでは重要になります。この権力ゲームの行われるフィールドが政治空間です。

(次頁につづく)

『幸福の「資本」論』(2017.06.14 橘玲)より

政治空間と貨幣空間 (2/2)

それに対してお金儲けゲームの目的は、与えられた条件のなかでもっとも効率的に貨幣を増やすことです。

権力ゲームは勝者総取りが原則ですが、お金儲けゲームはなにがなんでも一番を目指す必要はありません。べつに世界一のお金持ちになれなくても、ほぼほぼ裕福な暮らしができればハッピーなのです。このゲームのフィールドが貨幣空間になります。

政治空間には愛情や友情だけではなく、嫉妬や憎悪、裏切りや復讐などのどろどろした感情が渦巻いています。恋愛から戦争まで、人間ドラマのすべては政治空間で繰り広げられるのです。

それに対して貨幣空間はお金を介したコミュニケーションなので、ものすごくフラットです。いつも買い物をする八百屋のおじさんに愛情や憎悪を感じるひとはいません。通販でモノを買う場合、相手が何者かなんて考えもしないでしょう。この冷淡さがあるからこそ、貨幣君感は無限に広がっていきけるのです。

『幸福の「資本」論』(2017.06.14 橘玲)より

「閉じた空間」と「開いた空間」

ネガティブゲーム

ポジティブゲーム

	閉じた空間 (政治空間)	開いた空間 (貨幣空間)
境界の出入り	原則禁止(鎖国)	自由(自由交易)
社会の構造	タテ型(結束重視)	ヨコ型(機能重視)
組織の構造	階層型(使従関係)	対等型(契約関係)
人材の質	多重化(標準化)	多様化(自由化)
意思の決定	全会一致	多数決

伽藍とバザール (1/2)

伽藍というのは、お寺のお堂とか教会の聖堂のように、壁に囲まれた閉鎖的な場所だ。それに対してバザールは、誰でも自由に商品売り買いできる開放的な空間をいう。そして、伽藍とバザールかによって同じひとでも行動の仕方が変わる。

バザールの特徴は、参入も退出も自由なことだ。商売に失敗して、「なんだ、あいつ口ばっかでぜんぜんダメじゃないか」といわれたら、さっさと店を畳んで別の場所を出直せばいい。

その代わりに、バザールでは誰でも商売を始められるわけだから(参入障壁がない)、ライバルはものすごく多い。ふつうに商品売っているだけでは、どんどんじり貧になるばかりだ。

これがゲームの基本ルールだとすると、どういう戦略がいちばん有効だろうか。それは、「失敗を恐れず、ライバルに差をつけるような大胆なことに挑戦して、一発当てる」だ。もちろん、運よく成功するより挑戦に失敗することの方がずっと多いだろう。でも、そんなことを気にする必要はない。バザールでは、悪評はいつでもリセットできるからだ。

これを言い換えると、バザールの必勝戦略は「よい評判(「あの店、美味しいよね」「あそこがいちばん安いよ)」をたくさん集めること」になる。だからこれを、「ポジティブゲーム」と呼ぼう。

(次頁につづく)

『人生は攻略できる』(2019.03.06 橋 玲)より

伽藍とバザール (2/2)

それに対して伽藍の特徴は、参入が制限されていて、よほどのことがないと退出できないことだ。このような閉鎖空間だと、ちょっとした悪口(「あそこの店主、態度悪いよな」)が消えないままずっとつづくことになる。

その代わりに、新しいライバルが現れることはないだろうから、競争率はものすごく低い。どこでもある商品をふつうに売っているだけで、とりあえずお客さんが来て商売が成り立つ。

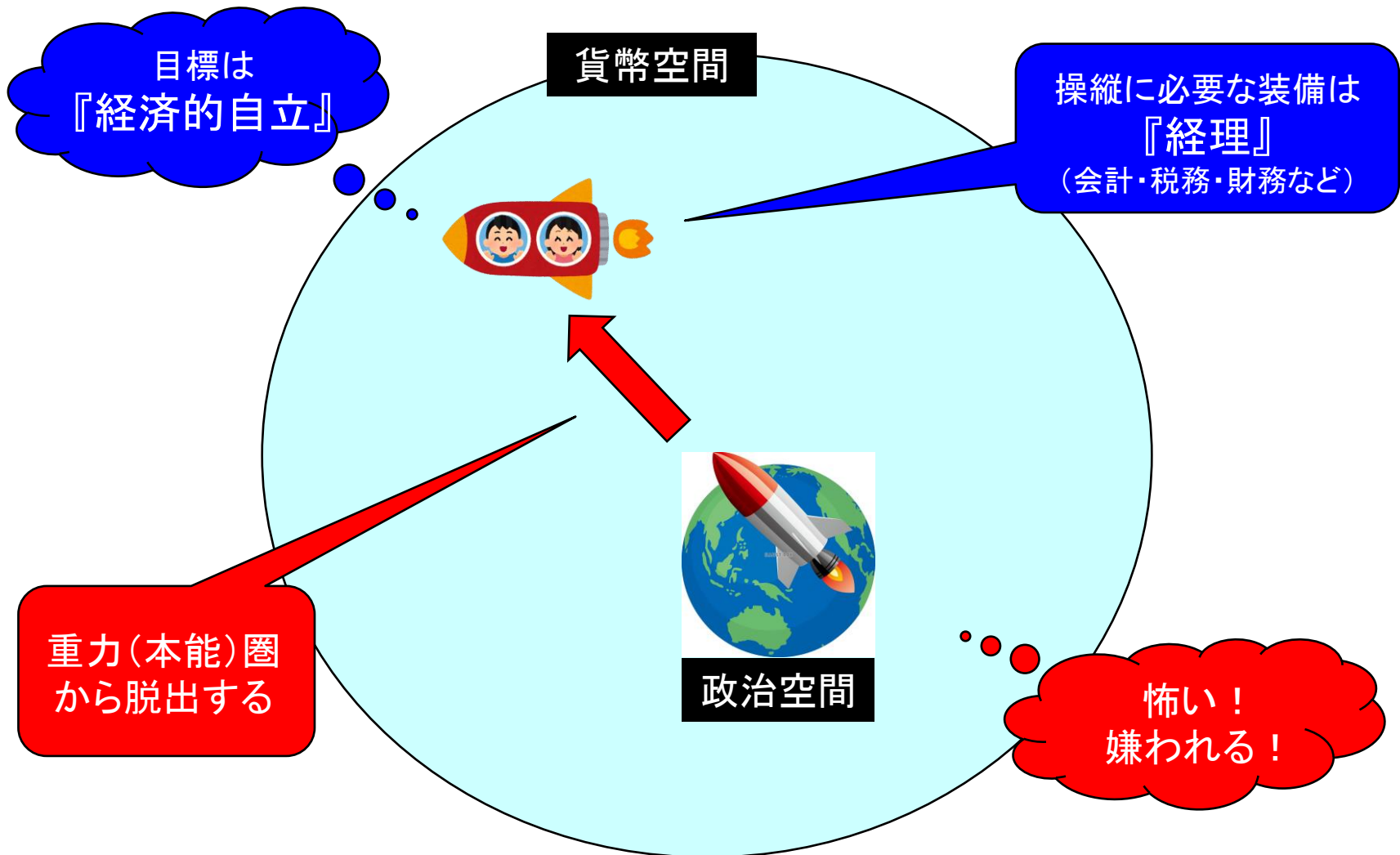
これがゲームの基本ルールだとすると、どういう戦略が最適だろうか。それは、「失敗するようなリスクはとらず、目立つことはいっさいしない」だ。なぜなら、いちどついた悪い評判は二度と消えないのだから。

このように、伽藍の必勝戦略は「悪い評判(失敗)」をできるだけなくすことになる。こちらは「ネガティブゲーム」だ。

ここで強調しておきたいのは、ポジティブになるかネガティブになるかは、そのひとの個性とはまったく関係ないということだ。ふだんはポジティブなひとでも、伽藍に放り込まればネガティブゲームをするようになる。同様にいつもはネガティブなひとでも、バザールではポジティブゲームをする。なぜならそれが、生き延びるための唯一の方法だから。

『人生は攻略できる』(2019.03.06 橋 玲)より

「閉じた空間」から「開いた空間」へ



「経済的自立」とは？

そのきっかけが業績の悪化や仕事の失敗であればまだしも、談合のような犯罪に手を染めなければならなくなったり、違法な業務を強要されたりしたときには状況はきわめて深刻になります。

引き受ければ犯罪者として刑務所に送られてしまうかもしれないし、断れば会社内に居場所がなくなってしまう。

しかしこのとき、あなたに1億円の資産があったとしたらどうでしょうか？

そんな会社にはさっさと辞表を出して、別な仕事(あるいは趣味の生活)をはじめることでしょう。

このように、自分と家族の生活を守ることができる最低限の金融資本を持つことを、「経済手的独立」といいます。

アメリカのファイナンシャルプランニングの本は、このような例を挙げて経済的独立の大切さを説くものばかりです。そこにあるのは、「経済的な基盤なくして自由は手に入らない」という徹底したリアリズムです。

『大震災の後で人生について語るということ』(2011.07.29 橘玲)より

サラリーマンが生涯に払う税金 (1/2)

税理士や会計士は「日本でほんとうにお金を持っているのは、成功した自営業者か中小企業のオーナー社長」と当然のようにいいますが、誰もその理由を説明してくれません。

そこで自分でマイクロ法人(自営業者の法人成り)を設立してみると、驚くべきことがわかりました。同じ収入を得ても、サラリーマンとは手元に残るお金(可処分所得)がまったくちがうのです。

……それもすべて完全に合法的な手法だけで。

それは「個人」と「法人」の2つの人格を使い分けるからなのですが、なぜこんな都合のいい(サラリーマンから見れば許しがたい)制度が存在するかというと、戦後日本の政治において、地元の商店主や地域に根差した中小企業の経営者たちが政治家の後援会の中核となり、特定郵便局や農協、医師会などを上回る重要な票田だったからです。

彼らのために便宜を図ることは、自民党から公明党、共産党まで、すべての政治家にとって死活問題でした。そのため、収入や資産の多寡にかかわらず自営業者や中小企業はすべて“社会的弱者”として優遇されることになったのです。

(次頁につづく)

『幸福の「資本」論』(2017.06.14 橘玲)より

サラリーマンが生涯に払う税金 (2/2)

サラリーマンは、税金と社会保険料を問答無用で給料から天引きされています。

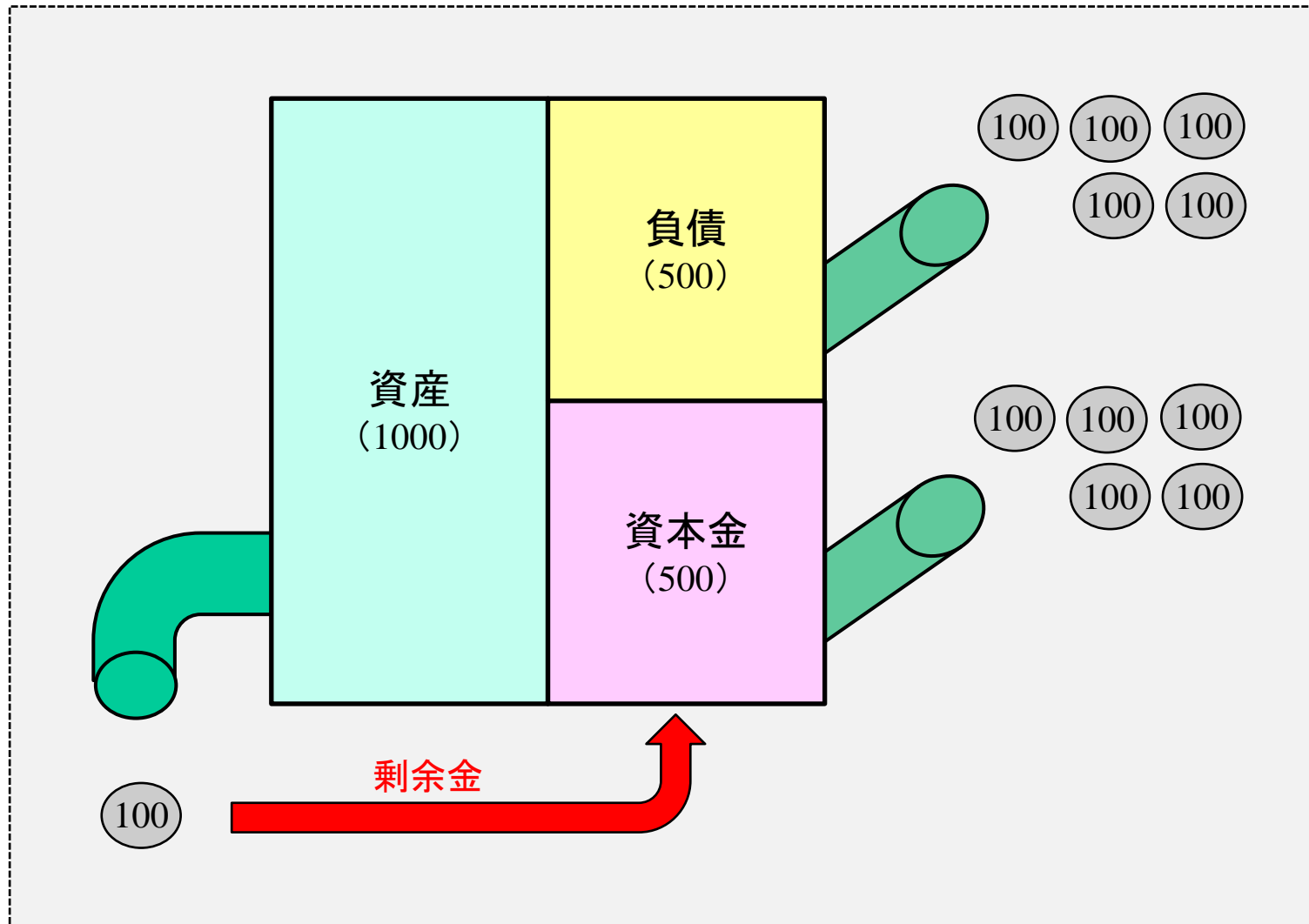
大卒サラリーマンの生涯収入は3億から4億円とされていますから、実質税負担率を3割とすると、一人のサラリーマンが一生のあいだに日本国に納める「税金」の総額は約1億円になります。

「マイホームは人生最大の買い物」といわれますが、それをはるかに上回る巨額の出費は国家への“貢ぎ物”なのです。

しかし「個人」と「法人」の2つの人格を使い分ければ、この税負担を合法的に大きく軽減できます。これが、成功した自営業者や中小企業のオーナー社長が急速に富を蓄えていく秘密だったのです。

『幸福の「資本」論』(2017.06.14 橘玲)より

お金が増えていく不思議な貯金箱 (BS)



『大震災の後で人生について語るということ』 (2011.07.29 橋 玲)より

「資本主義」とは？ (1/3)

バランスシートは資金調達と資金の運用をひと目でわかるようにした便利な工夫で、お金が増えていく不思議な貯金箱だと思いとわかりやすいでしょう。

この貯金箱の右側にはお金の入り口がふたつ付いていて、下の投入口には自分のお金を、上の投入口には他人から借りたお金を入れることになっています。

このとき、自分のお金を「資本金」、他人から借りたお金を「負債」と呼びます。

貯金箱に投入されたお金は、混ぜ合わされて左側で運用され、一年に一回、儲かったお金が出口から吐き出されます。

不思議な貯金箱は集めたお金でいろいろなものを購入しますが、そのリストが「資産」です。

(次頁につづく)

『大震災の後で人生について語るということ』 (2011.07.29 橋 玲)より

「資本主義」とは？ (2/3)

バランスシートの機能を理解するのに大事なのが、レバレッジと複利です。

レバレッジというのは、資本金と負債の比率のことです。

貯金箱のお金がすべて自分のポケットから出たものならレバレッジは1倍、資本金と同じ負債があればレバレッジは2倍になります(資本金500円に対して500円の負債があり、合わせて1000円の資産を持っています)。

複利というのは、貯金箱から吐き出されたお金(利益)を、もういちど下の投入口から(剰余金として)貯金箱に戻すことです。

ここでは100円の利益(1000円の資産を運用したから10%)を資本金に加えています。

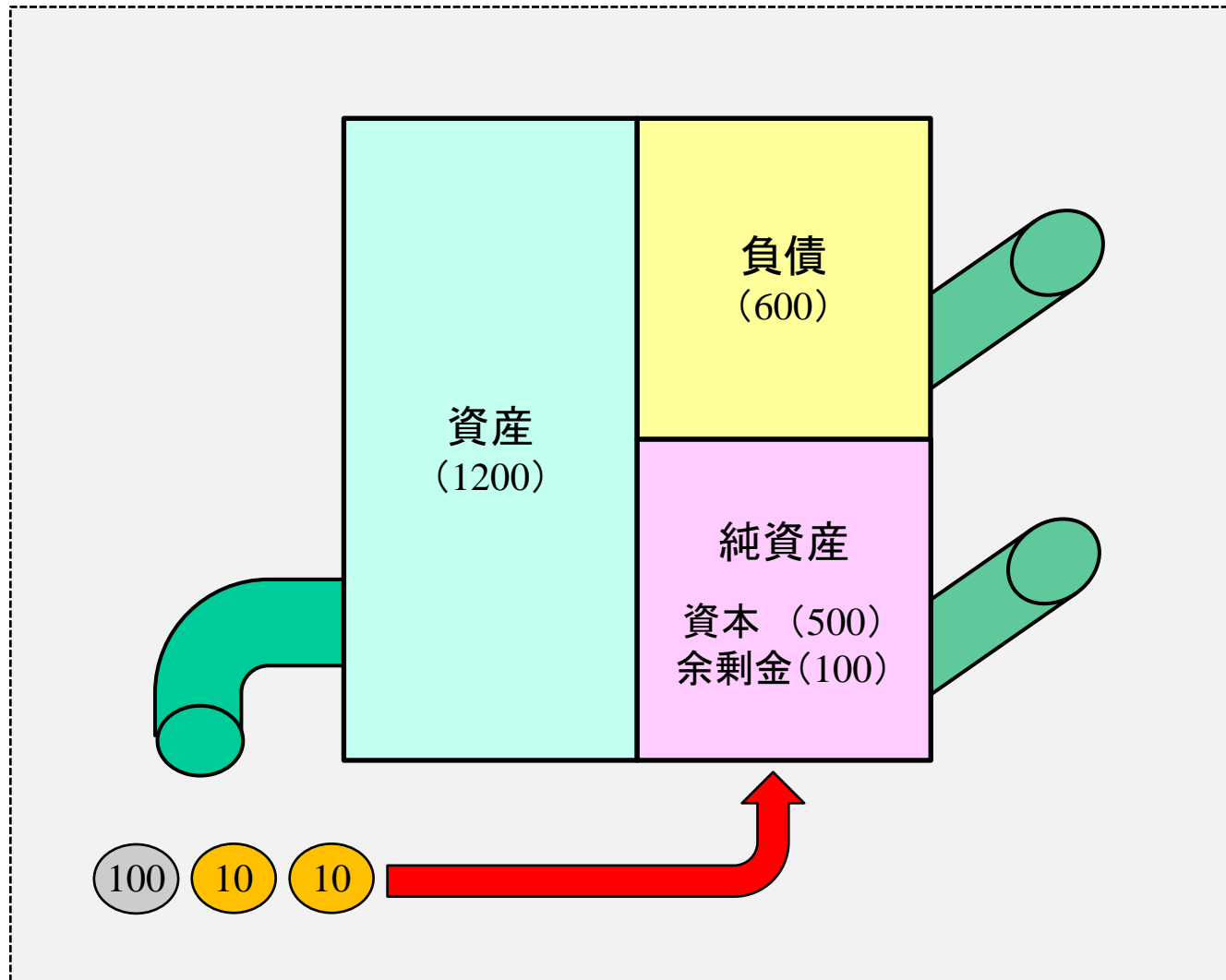
資産の運用利回りが10%なら、資本金500円だけでは50円の利益しか生まれません。ところがここに500円の負債を加えると、利益は100円に増えて、資本金(500円)に対する利回りは20%になります。

このようにレバレッジには、利益を増やすターボチャージャーのような機能があります。

(次頁につづく)

『大震災の後で人生について語るということ』(2011.07.29 橋 玲)より

資本金 + 余剰金 = 純資産



『大震災の後で人生について語るということ』 (2011.07.29 橘 玲)より

「資本主義」とは？ (3/3)

最近では、資本金に剰余金を加えたものを「純資産」と呼ぶことになりました。グロスの資産から負債を引いたネットの資産が純資産です。

資産 - 負債 = 純資産(資本金 + 剰余金)

資本に2倍のレバレッジをかけて資産を運用した結果、純資産は600円になり、それに合わせて負債も600円に増やしています(レバレッジ率を2倍に維持するわけです)。すると資産の総額は1200円となり、運用利回りを10%とすれば、翌年の利益は120円になるはずです。

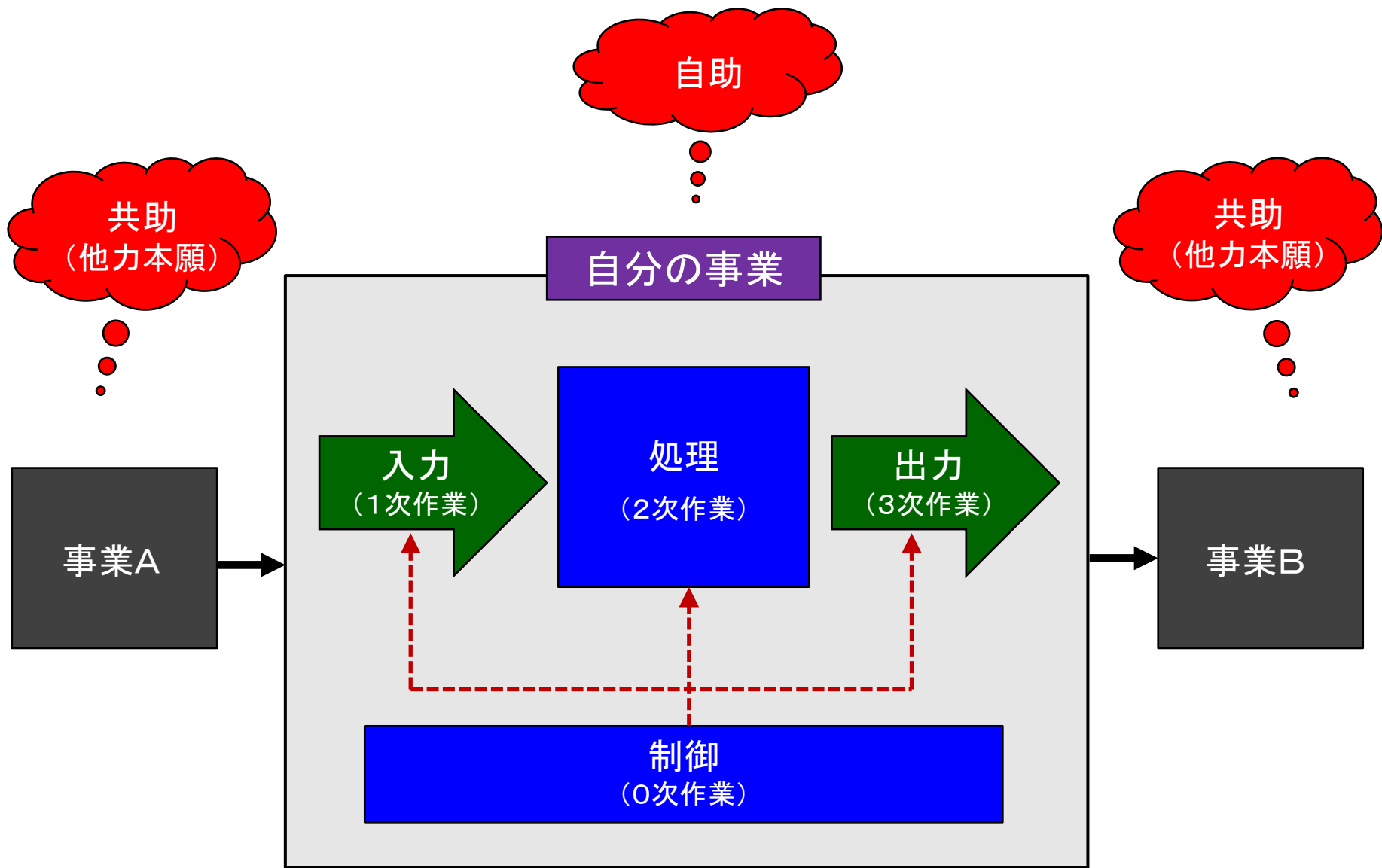
このような経済活動を繰り返していくと、500円だった資本は600円、720円、864円、1037円と加速度的に増えていき、10年後には3096円と約6倍に、20年後には19,171円と約38倍になります。

これが複利の効果で、時間が経てば経つほどその影響は大きくなります(レバレッジが負債を使ったターボチャージャーなら、複利は時間を利用した利益増殖装置です)。

このように「資本主義」とは、複利とレバレッジによってバランスシートを拡張していく運動のことなのです。

『大震災の後で人生について語るということ』(2011.07.29 橋 玲)より

事業のシステム構造



「足し算」と「掛け算」

雑務はゼロでない

実務(物理)空間における事業

作業時間 = 制御 (0次作業) + 入力 (1次作業) + 処理 (2次作業) + 出力 (3次作業)

レバレッジあり
マイナスあり

貨幣(仮想)空間における事業

ひとつのゼロで
すべてがパー

儲け = 制御 (0次作業) × 入力 (1次作業) × 処理 (2次作業) × 出力 (3次作業)

独立する際に重要なのは？

日本の会社の人事制度では、専門家としての高い技能や知識を持っていても、それを“市場価格”では評価してもらえません。

そんなときは、自分自身を法人化(サラリーマン法人)したうえで、会社と業務委託契約を結ぶことで、これまでの仕事を継続しながら所得を大きく増やすことが可能になります。(中略)

独立する際に重要なのは、会計、税務、ファイナンスなどのファイナンスリテラシーです。

サラリーマンはこれらを“雑務”として会社にアウトソースしているために、税金は確定申告の医療費控除、ファイナンスは住宅ローンのことしかわかならい、というひとが大半です。

マイクロ法人ではすべての財務を自分でこなさなくてはなりません、その知識やノウハウはいずれきっと役に立つでしょう。

「会社」に人的資本のすべてを預けることはきわめてハイリスクな人生設計です。この残酷な世界を生き延びるには、伽藍を抜け出してバザールへと向かうことで、極大化した人的資本のリスクを分散しなければなりません。

しかし、もしそれができなかつたら……。

そのときは、人的資本のリスクを金融資本でヘッジすることになります。

『大震災の後で人生について語るということ』(2011.07.29 橘玲)より